特別
14
3157
10

序

石上古記一年歌のうれ苍のと呂葬れこの金一
ものしれもちらたりれ事形くしこれい仮物なと
ものそ没そのこいくあ所のそちあも多うはと豊ふあと
閑ものより世そ世戯系れ仮まるく其間ふ物の歌
葦原の中津國を元こわもこもかこ大このこ物く
薬りれもこ玉者たゆこ年く祖霊の係おふとの
くもの宮武芳歌ふ系供表あり少数ふ花物あ音子
ら母のこ色ふ夏百りのこ教句を形て一集の名こ未せり

序

千早振宮居のさくらはなさくらの仲者とする
所穂ゆゑ[illegible]
[illegible]の[illegible]いやひ中の二日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

岩文化四年壬申三月伯陽應響舎治雪謹序

一頌

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

怒裕
蒼軒
広坊
馬州
文雪
[illegible]

[illegible]の國に[illegible]　月宇
何を[illegible]　[illegible]
是[illegible]　[illegible]
[illegible]　千屋
後人の[illegible]　霞潮
[illegible]　國雄
[illegible]　玉桐
帳[illegible]　[illegible]邑

[illegible]　居然
[illegible]　芦涯
[illegible]　百丸
今と昔乃　百喃
[illegible]　一熊
[illegible]　桃雪
[illegible]　[illegible]
[illegible]　仏齊

武蔵野の俤うもれ無の上　素林
初夜とゝつゝの音ふけ行き　其成
御恤る意の寒さと候まゝ　千代道
笛うあけゝも猶さゝくり　阿羊
牡丹餅入り鉢の雪のきえ跡　茂良
樹蔭つゝる春の山　宇洋
鶯の文字ゝ流れ数　玉洋
二夜月の波よ桶もとゝ　在貫

牛馬も役ゝさゝれ神祭　馬遊
如ゝのゝり先鶯ゝ鳴く　荷屋
吹伝ふ松の調ゝのやゝすに　斗雪
舊都ゝ山茶をゝ原　布雪
狩ゝゝ来ゝも月ゝ立如し　百池
夫先ゝゝゝ康の通路　置羊

宋略

春の夜をそこなふ雨の音聞ゆ　肥后　眠石

梅の香をめでけつるかの庵哉　菊泉

草乃家の曙鶯の雛よ　牧笛

夫婦のこゑとゆるさるる夕ぐれ　波弼

雛くゝ鳴くきしの明日成ぬ　童溪

十日もち廿日もちなり糯活厳　百児

ふるこゑの落ぶとなれつゝ北沙　熊本千種庵　秋郊

家さゝう身うもちなるも、　李蹊

一日乃業ゝ記とゝ、初さゝう、　岫丸

雲乃手人をゝる山乃　羽人

仲籬業のをしゝよ紫ゝて　栗葉

ゝゝなりゝの来る月同ゝ多好　蘭戸

ゝつりと身よ拾ゝる雲のかゝら　怨風

茅ゝより生ゝる雲のゝゝゝ　東夫

鶯鶯のく拙よ花つく旅まゝう　蟻城

七つ乃緒よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月よ借る有の佛の白しく

[illegible]

[illegible]

蘿乃[illegible]

慶遊

緑川

丸

人

蕉

戸

風

夫

堪

花のかけ鏡[illegible]に[illegible]

扇の[illegible]人乃[illegible]

遊

川

[illegible]

菓[illegible]

[illegible]

夜の[illegible]

[illegible]

山[illegible]

羽人

曉球

恕風

栗蕉

車夫

[illegible]

谷の家乃底於しつゝ雪解かな　三涿

山川にゆる水の聲ある春の風　荻里

歌を案じの途　明る山滝のかな　虹夕

着のみ花れ根まとふや暮の枝　蘭雫

雨ふられて雲井にかゝし山さくら　冬扇

あめを雲雀に涟よ熊戸かな　連之

松明の影は人ゆり山さくら　尺嵐

桑の影も此かる静かなる哉　秋鳥

毎日乃さくら見にゆく婦ちかな　岨邑

朝の要まなりをわけしらる雪解哉　虎洞

春風をさそひ出する小舟の春　巴友

返るの花ゆゑ清ひて花をこきれ　砂石

井にさし浦のあ高山る社の春　茶夕

出代の三絵勢盆やふま哉　仙斧

梅のちりかゝりみそり池の魚　松雨

雲さへしらぬ　起りかゝり　千甲

月のさむい浦の風　める山路かな　蓼雨

春乃夜やみちれぬとゆく鐘の声　鎌栗

[illegible]

壬辰　二扇　巨水　慶友　三考　雨亀　貫露　橋巴　蟻城

[illegible]

蘭戸　敬裳　長泉　賦水　源川　岫丸　瑚璉　砂象之言　川凡重和

[illegible]

春雨の降るを見やるとなりへうり
竹葉　しをれがくれる雀の郎　雨石
湖一　ゆゝしきみのまうへ　烏朝
春雨を伝ひてあるとやどの川　五嶺
枯萩のさゝ出かしや勝身　白鹿
ちるもをしなりけりの繁　黄昌庵　砂童
春も見る梅よりさくる山路かな　天草　敬内
笑ひのとゝくらの里し和こゝ　工草戈津　斗牛
　　文光

山越中屠酒る　広輪
常ようをそつあ下し毎の雲　雀笑
智恩院にて
夕ゝれといとゝさくらさるゝ式　肥前長崎　三笑
冥雪の夕の如きと来よりり　速早　梅江
ゝもゝ吟まる梅の月夏ゝ　夏亮
夏ゝ吟まる梅の月夏ゝ　芳笙
ゝ吟ゝ　泥龍
ゝ吟ゝ　也芦
附句ゝ　也芦

[illegible]、　遊鹿
[illegible]男かな、
[illegible]、　長崎　怒交
[illegible]、　鞍風
[illegible]、　吾友
[illegible]、　其吟
[illegible]、　春喬
[illegible]、　如松
[illegible]、　馬蓼

[illegible]　馬蓼
[illegible]　馬卯
[illegible]　斉渕
[illegible]　如松
[illegible]　卯
[illegible]　蓼
[illegible]　松
[illegible]　渕

さつはりと小袖も帯も新しく　蓼
先山茶花や冬月和尚の堂　卯
初霜越しくと踏山の人　渕
つゝとせに念佛申す乃ふし　松
花月の程ならぬ几烏帽子　卯
酒のことさへ云る石工の秋　蓼
浮雲く簾の房をもむ冷しさ　松
夜明る蓮中からぬ蓮心　渕
咲花を比かいまみに塗籠て　蓼

家々に逢哉千鈴雉子　卯
梅の咲葉もかくし一生涯　肥前平戸 井甫
出さ乃ちうふ春の三日月　正阿
横堅に霧線中を綱引て　李薫
響哉寂て波まうに入　甫
卯の花を拾ぬ軒端のさひし法　阿
招も第一本津急て並　薫
あるもの双六打さ叫ふ見　甫

踏んさくつく砂川のほし　阿
淺ましの法堂の底根の底うり　蕙
錆をぬぐんん淀のの抑高　南
家紋かしくとてあるこの長　河
月とゝ雲とゝるるるくくのの　蕙
苅萱ハ芝へ〻顔の石すして　南
竹つとひとつも原の秋秋　阿
氏神のかろよ乗ある仕掛ひ　蕙
大きふ石をとゝ園とゝて　南

咲ても見たりうかと作りる　阿
何我撫くもも来ふく蕾　蕙

其外
雲の水生松笠の流色りり、
雑魚ゝる涙よ知ゝや雲の月　文英
雲乃夜も弟くゝのの雑ゝ乃琴　楚流
法師ハ礼ハ佛なあ鶯鳴田螺　吾鳥
ひつたりと咲ても知もうと赤紀　五鹿
桃乃手ゝ花ゝりりうめの色　李薫

山深きやとうもたがめしもとのころ　日向養樹　龍雨

常夜灯の千鳥の声城出るころ　吟龍

永日やまるも椿ひ蔵るかと　[illegible]可附本　五岳

旅人の影かけ行柳のふ　筑後久留米　芦月

岳の姿隠るまでも流れうつ　沙明

夏のとく月の堀ある梅花　文角

却説ふ月とく月来とうくふ　筑前直方　北原

雨乃ちれまるる月度ある夜なりうり　棠丈

谷巡りの金剛りの山の姿のな　五雪

紀景松ふ川山を裏あらせ　寄木

月とともに流ようるさうる式　柳左

月ようく谷紀ふ山梅うな　文化

来るの谷を近よることうる式　布楊

却の中人ふうもきぬ仰ふぬ　求古

神さひて苔花や咲くるる古
色も香も苔ちるうさへもりて秋
山雪をさきにし鶯れそのゝ橋　桜雨
只一本月よあや芝生さくら　椿口
ゆゝ宮や花ちるかるの草庇　晩翠
むの色ゆくるる主記桐情　葵青
夏花つるそむちりかてゝ家よりり　源眉
ちるゆをくふふとそくんくるる　晩翼
やりりの雨の海よ日ありりくる　投巾
　　吉田　春江　楓里　曙川

病身すてよ生ゝ　魯ゝ　姫波
柳のうち
かるかきくよ高くいひしくもくに　浦旅
りりのくりりの雨も通ふなゝ初橋　一筵　芳屋
旅人よりくもたくゝ孫生武　四軒　福島
太寺や松の中ゝりゝ初さくら　歌舌　頼野
仮籠のうくるふのこころなくゝ　魚水
乾坤くふ春を搭むり那　豊郎津津　星屯友

ゑひさし草にかくれて去られぬ　新釜
ちるをみとゝて往くる事も峠　其嵐
船頭の眠りきらなし雲雀哉　豊後日田 古来也
菜の花や彼岸の鐘の鳴　青篁
おしみなからおしてられけり桃乃花　小浦湊 月虎
かちくの一日一度やきそうくの祁　對馬 曙堂
さゞ波や雛も明くる松の下　雨柳

月よかさ芳野雪の袖や花の紀　曙堂
初嵐柳見へけり通り道の字　雨柳
櫻檜谷一本乃月夜の家　東指
松原に一本曙る夢の跡　数華
時鳥なかぬものの嵐の峯　哥声
後見して文紙の上や月の宿　竜丸
花月に寝て夢の庵を送りけり　雨竹
若草に火をともしたる山路の家　長崎 赤間関 雁風

たゝもち祢よ仰ぐ新もゝなきの色　雲蘿
家古屋やさるゝに祢ぶ愛の風し　上毛　為充

往来の人影ほく柳の糸　防州小郡　不古
能人手引ゝ乳よ董州　吉梁

壹山中寒よ浮くゆ山嶺　扇福光　義言
箇新ぬ制孔もゝ糸うめの乳　臨江
ゝゝゝも吹垂てもゝる柳条　浮根　湖東

巣の菴香者ゝぬ沈の一木の松　出雲大社　浦安
沈よ沈りとゝゝゝりて乳ゝの紙　白波園　有秀
須未のんうゝゝゝ也ゝりり　寸苗
壹の形を遊ひ馬ゝ国東式　有風
重とぬゝとゝ祢よ寒の寒も糸　岩井
山川中也の浪ゝらの夕ゝし　扇風
也咲ゝ郭の点の新芳り　露麿
藤ゝ世ぬ千芦火波の梅の花　神門ゝ井宮　一鈴

[illegible]　其風
仁和寺の叢乃本尼ら[illegible]書式、　[illegible]池
[illegible]の[illegible]を知れ山ら、　波濤
[illegible]の書月八[illegible]ら[illegible]えて[illegible]、　葵子
[illegible]や[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　橘隱　花紫
梅咲を[illegible]も　[illegible]ら[illegible]の[illegible]　下古志　芝及
[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]　露雲
[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]ら[illegible]　[illegible]
山[illegible]の[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　上古志　東屋

[illegible]も[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　澄水　古志所
[illegible]の[illegible]ら[illegible]ら[illegible]の[illegible]ら[illegible]　杜若
[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]ら[illegible]　李白
[illegible]も[illegible]ら[illegible]　魯山　押系
山[illegible]も[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　[illegible]の女
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　[illegible]安
人の世[illegible]も[illegible]ら[illegible]　池月
[illegible]ら[illegible]園の梅　都水　神志
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　三都民

風ちをひらふ人せりけり妻の月、　百丈

夏廣中白鞠　契る業の夜乃撫　小田　其宗

酒の勢ひをそなたとなりぬ　安藝ヒロシマ　移仙

ゆき雀蔦くさのあるじとなるう、　常貴

ひとり舟の淋しく出りあの夜、　豊蘭

暮うる日に赤つるありける乃婦、　露柳

憐れなる日とふ〜ぬる風情なり　宮嶋　含菊

これのこと已うもなきやつくし　中村　梅山

庵濱中松のあるう乃夕ゝと変、　五由

附表〜ぬうう結ひたり菓種也、　蒼蛇

巻の資丈伸りり花をそ走　佐渡福山　牛後

うれしさに笠を出て出形横ホ、　芸葉

四月もまもなや夜明の雨ぬれて、　芝明

淵の山ゆりて妻形茶木うる、　羽白

ひとり居〜月あへ小宅し梅の色、　接月

又ひよつろれんこ　二月廿五日　飛中　寄麿
[illegible]　笠置　古音
数多しぬ故　[illegible]　本子山

世の中やたくひちくひよりのちる　摂州忍海　蘇明

[illegible]　伯州大谷　沾雪
世の用のなさを　牧人の[illegible]　牧牛
[illegible]　[illegible]　微州

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　久古　沾荻
[illegible]　三濟　仲蘇
[illegible]　[illegible]　宣哉
[illegible]　法勝寺　文虹
[illegible]　三條　碩遊
[illegible]　[illegible]　湖水
[illegible]　寺内　新風
[illegible]　米子　富門
[illegible]　浪大谷　里月

春の雨降るものへとある　川岡　蘭玉
炭焼の袴長く出る春日哉　車尾　克器
蕨摘ませさんかくこやぬ宮ありの　末子　和月
いの出来るものあり社小春　日吉講　徐来

人妻れい咲く人きたのなる樓　伊賀上野　峨月
妻の月浦家うらやく情千香　、　桔鳥
されいて我咲やんく海の梅の花　、　椿来

思ひ蕨く摘手沉む和山ろか　総州結城　詩舫
浪世めうあ而も花乃響り哉　、　其章
常や山一人ひを時波——　因幡山名　烏蝶
里寺ここ廣野の寺井寒ろう　但馬三方郡　月洲
ふけりあと摘ちろう小庭ろか　、大津長安　風兮
下邪や橋を寺ろ夏の光ろう　丹後石野　舎琴

ふるとしやたかのあるうの和さうう　加賀　如琴
ひつそりと月新もる橋うの音　馬琴
志ぐるるの雲こゑ深く郭の山　其山
海の雲に雨ちるや橋のうしあし　宮津　武鼎
二百の月おもひひろよ暮るるう　石川林　蝶子
長閑さや女波たうの和ぶの滝　枝烏
蛍の鳴くやなり深の上　丹波大山　尾京
さゝ波や月乃うへ飛ぶ〻ます　尋河

ぶ鶴を上ぐる家うぶ　二桂
さゝ〻義て月よ〻まる夕ゆく松　篠山城西　鈴鹿　弘三
菊代の移る代乃けゝ〻ぶ
姫のさゝ〻く表ふうさ蛙うか　東眉
大きなる月をひるうす柳ぶ　季柳
さゝたれの鳴て沙本の白ひぶ　岡蛾
滝月乃うさ〻く藤〻ぶうう　拾朗
淵と寺門の中乃小寺の家　鯉三
本鳴や秋さ野乃うう山　橋　其屋

家をも時雨もあく行く秋　東亭
峯の松てふ苔さん上　武陵
鶯と鶏とまつ遊ぶ中山乃家　水上村　魯鴻

紫の戸に西行さくらをうつす　摂州猪名　仁坊
さるをよにひろみけりり雀の子　李杏
初鶯ひとり於くく山乃月　遅春
法師をはこつしたるやあの波　三好口谷　未徹
高の笠乃ちりうるすり鶯

初鶯おうたに小家の陣ゝ郎　伊丹　比良
川ひるるみとまりぬあの雲　駒房
何ふもの乃ちゝかゝちゝ花の山　大坂蛍宿　米表
灯をゝんをてあまの蛍出ル横ゝ　女　桃葉
浮世ともいの角ゝあの雲ゝ　栗谷
山法ゝゝ孫ゝうへ乃花粽ゝ　大坂　楷庵
雲折りしろゝ霞ゝ東雲
紙屋の夢ゝにみつゝゝ火をゝも

少しに一度の地をあるを
きぬぐるを流るを流る月の新
苞越るをひ〜しの雨のきてけ
右獨吟

春柳のうへのを春乃靜なり　芝下
さけ夏や新なる恵らの小松引　女と夏
芦の葉や野の古巣乃蛙冠士　市正
蚊帳をそなる蚊帳の涼るを記　女年　黒友
菊畑のまるりいるの水　蘭子

さるそこ孤おむ夕の郭　万和
流れ〜あるも磯のかりめる系　松人
むつりる鶴乃うへ月夜の峯　湯松　田月
咲もの本るよ歩るやるの道　花叔
本塚乃鬱なるらて抱懐する　伊丹　紅葉
初もやるひ入きる月　尼ケ崎　春人
陽炎よ素てるるる女浪弐　伊ケ瀬川紀　東里
登に建るるひ小家う紅　三清　蘭園

草鞋ぬくまとありぬ梅の花　、小松 霞耕

咲くも横となりて朝霞り　澄州信尾 宗德

蝶とまるや年木なりて初櫻　、十代

木乃花や土のこうけたる雪の家　、有隣

縁の雪手まとれそうれ春の梅　、寄長

悪風の立海よしうめの声　、玄鹿

兄弟妹子も浮めるまつ梅乃花　、風馬

此筆のこまるまでちれ夕ざくら　阿波 童大

田一枚持ハ楽しなく蛙　泉州堺 金森

あとうらも雲も雪に入る花の山　伊勢神戸 素隆

人声よ又分入や山ざくら　白子上の 雲子

さくら咲てや花帰る雪解　、祐見

おりしや花の咲雪にかゝれぬ　、幽蘭

深ねくとなまるむそてひそね云　、斯蘭

[illegible]
きの八かしらの屋うるおりもの者、　義賀
[illegible]　能力
[illegible]　行至

箇の書に新の書柳志屋うり　伊賀上野　乙々
[illegible]　士得
おのぶりう箕の嶋日和ごろ　尾州名古屋　大蘇

犬のふ乃まきらう能好　東陽
表
[illegible]　浦風
[illegible]　大蘇
[illegible]　琵屋
[illegible]　五道
[illegible]　八蘭
[illegible]　濱里
下[illegible]　六道

[illegible]　弐屋

[illegible]の[illegible]に[illegible]

三　[illegible]　[illegible]洲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　力漢[illegible]　東洞

[illegible]　[illegible]

[illegible]　在京　牛道

[illegible]　[illegible]　[illegible]　帰山

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　奥州南部五戸　三豆

[illegible]　仙臺　子春

[illegible]　南部五戸　雲外

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

山寺や岩根をくだく松の花　今川盛昭　梅花

撫子のかげらふるのだれあるじ　柳月

松ばらの雲の明る春木かな　東　保三

出口の鳥をとらんも春の暮　一鄙長

春雨乃ゝくゝやゝ物の音　下千林　風子

白象と岩にかきあるり滝月　南京僧　五柳

やまずゝきの中を出る湯川哉　志桂

稲の香の二夜ゝ前し板戸　知足

黄金の清らと飛す蓮の花　加古　舊雨

清かへる星のもとゝ赤つゝ紀　雨鴻

俳書を流の三月三日の那　何頼

横咲世よ遠桜老人うの　龍弾高　備中

もの中ゝ一かゝ岩の　幾代　世野

生のけん赤ゝ良ある　猛丘　翠良

ふゝくれの郭のゝ　小石　於居

ものの香と吹へる梅の薫り哉　鶴面

ふるの宮雲の梅の香をもちかへ　（上野国）雲汀

越山や　ふるのこゑ　初さくら　（上野公園桜）筆雪

ふる鐘堂を尋ね

山ふかく入らんとすれば　永鳥　春雨

春の梅　ほのぼのと　ふりかゝる　（大磯）枳之

鶯や　出家ぶるまの　此里の　（武蔵中富）嵐雪

垂の雪　窓へ吹こむ　日ぬさ　加岡

梅ゝ香を　樹ゝ　ゆるみけり　月おぼろ　馬城

梅の咲　中も　松の　一本うれ　路月

雪ふれば　ふるの小宮か　南　鯉里

春柳　日を　迎へ入る　川辺　宇井

春入る　火を　焚　その後　雪員

春ゝ　又　松　姫の　ぬん　東映

梅梅の　蕾ふ　川　雑　ふれ　落逸

小一寸　峰　蕾の　見も　ちるも　楓華

弱ゝ　春の　春ゝ　ぬ小　ぬ　不碩

寸美れつ世を生なかる春乃、　田湖
のけしやるよ時雪乃釈雀、　石枝
人を生ん後思ひ乃り二日夜、　酒祈
撞乃船と姫人る日あり詠せ山、　玉樊
山後やすき世よる並ふつくしし、　素簾
丁ひや法ゆよ二あの船ノ手り、　可一
篇の多曲宮ぬりく逝ひり、　路方
鶯月杉乃赤毛の乃ゆ如と、　如是
ゑ手の文俵ふ乃る露ゆ、　士芳

酔も酒も涌毛り里乃桃の色、　素簾
里の乃を生ゆ寸さ咲よりり、　一南
む乃ち手ゑ小法の蝶も舞ゑし、　二彩
鶯乃や小もく丁乃友さ乃ひ、　白雄
里ゆ梅一つ乃ゆ人毛ゆ、　子白
時毛ゆす宮の網戸や猫乃恋、　子猷
巣の手ゑ佳藤よりれい柳様、　梅十
田の鶯の水もちれと春のる、　如拙
法代茅生ゆ手ゑ雀の出入のゑゆ、　魯扇

去乃藝つまをおりぬ雀の茶　乙竹
川の一天乃ふるとそれ〳〵春の水　高岡外記夏　茉朝
ほとゝぎす鳴とやしらん夜の色　里俊
ちるあるもや夢のけしを結ぶ香　文鳥
むすびつれ二筋三筋山ぶき　芦角
白藤の咲ぬうちゝ水のあり　花農
ちるもやはひ〳〵ひ移てそ孤しき　直蒼
童かし生垣菫と芳すりり　氷見　井齊
鶯毎の巣引あるる雲雀うた　祐之

ゆるちのまるしてゝる百千鳥　春潮
ひへまてもかりのかぬさ〳〵　豊暁
常盤木とたゝへく橋ゝ月　蘭陵
小藤殘しむるる鶯の夕　不全
乃手やさゝをうに菫かりぬし　うらゝ
月ゝゝてゝ打もゝ云し山櫻　女佛
去の氷動く冬の夕暮のうち　松花
金ゝさして行た田毎の蛙のあ　雪岱
橋の月ゝひゝるの庵りり　南枝

去の猫よりかへる竹の丈、　きく
家新築その日やはつ雪霜、　樹嵐
春雨や山八時過ぎまでの蛙、　女柳子
うち見れすやそのかの自を伊之餐、　雲雀
蛙鳴く枕ぶかぶかの雲やあり　移り
洗ひたる雲と梅の蕾ぶり、　野春
面白く撥ぐ蕨自表ぶ、　菊二
庵蔭の蕨を被れ雑木の芽、　可近
里人乃多藤と仕り梅の花、　梅眠

出代やうろうろのあるまうり、　秀蕊
山橋咲いら梅みれ岸乃ものの、　馬太
うぐひすや山のゆ目をしてあて　十花更八子
松根を井日も書うぬさうぶ　水楊文器
赤もかけしるいふりりぶ　塩昌曾内
月を山をたるの紙梅の雲武　海方仙梅仙
山うぐひさうぶ梅の雲武、　如彩
白梅やそをかをとる明る乃朗　立夕孤林
目をうぐひすの岸とたりし撥乃　放生庫草風

巻の末の乃ゝ[illegible]てまの水、　共和
雪とけや濃るすまを溪川、　有隣
菓の[illegible]や[illegible]の古屋敷、　哥兆
夕ゝまや[illegible]の古松を時雨、　如友
菓のあや面一筋ゆゝ[illegible]、　白雄
木[illegible]ゝを[illegible]の秋、　樹徳
長宗ゝや[illegible]たけるを鞍ゝ口、　二翼
永ゝと人[illegible]の縄を[illegible]郎、　大酉更海農
菊よ[illegible]る野も[illegible]ゝ春の雪　笠見鞍川風貞

蕎麦のとひゝ[illegible]蕎麦を[illegible]堂　奥津大賀
山の[illegible]一[illegible]ちゝ[illegible]、　東敬
咲乃[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]、　文景
[illegible]や田畑や[illegible]海、　魯山
古[illegible]ゝ[illegible]ゝ柳[illegible]、　菊芳
松林ゝ[illegible]ゝ時雨、　徐生
[illegible]山[illegible]の柳[illegible]、　其竟
[illegible]や[illegible]の[illegible]、　巴良
蛙時上の[illegible]、　狐山

雨乃日や萩の下ちる雑木の影、　朱鹿
梅咲や移りそめる日の晴れ初　貞志
折ふしの波佐や梅乃花、　柳春
菓のもとや中ゆる家を明ぬ巳、　一更
長雨の昼よ鶯の出る丁郷、　鳥江
日を入くとゆるる梅うぐ、　芳花
車糸へ流して行く蛙、　鳥隼
長雨や糸吉の鶯の後の中、　眉秀
あかるもる日向ゆる弦初梅、　平疇

ゆる日の水中ゆりて梅の花、　其梁
日暮乃里ゆ来る柳哉、　世器
都さや入日かへくちるさくら、　竹雅
胴戸ゆの河の新蕨し明田堀、　軌長
明るける柳や水のうを長生、　錫我
人待も長の山道中雑木の影、　志明
松根よ蕨ゆ勢も梅の白ひう郎、　呉人
菓の花や夕日ゆ長き一縄ゆ、　可触
年ゆ乃人ゆ中ゆ梅、　可碩

咲のけく／＼あまもや岩山、　度了
老岡や手度をとゝぶきて雛の夢、　如乙
うゑ／＼ときとのたゝりもの乃山、　女　花姑
義のゝる中に都乃き搖こゝぶ、　蘐之
梅ゝ香手かけほく／＼ゝる附斗ゝ、　杭塢
鶯歩手背戸小林しき蛙のゝ、　金戈
ちゝ乃や睡うゝゝと半乃夢ゝ　八尾　芭光
流家の春や海ゝし梅の春、　寛路
梅乃色鶯の黄義晒ゝ乃り、　李夫

雲乃ゝ手如きゝや谷ゝゝ、　霞度
川の淀や松ゝも吹ゝを鶯ゝ月、　祖柳
秋新も鶯なりゝ水の月、　梅公
清やゝゝ鳥ゝ乃惜る搖ゝ、　文水
ゝゝまる人ゝ小家乃柳ゝ春、　牛歩
笹ふゝき門ゝ新しき春の月、　和水
一本の春ゝゝゝ茅ゝる家、　五陵
ゝ月ゝ二ゝかけ人宵ゝ月、　二慶
向ゝの春ゝゝ陸月のゝゝゝ山、　觀雅堂　都立

百乃日や戸石よりひろう梅乃宴、　波雀
日ハ出て年よ帯い茅ゝ桂の年、　寿仙
傾き都の色て春れ柳哉、　如流
あけ方の や鳥 時打 ものゝ、　蘭風
年〳〵や 武 の 白ひよ 人乃新、　桃夫
都の色よりう 雲の 枝哉、　枝白
狩 佛 まゝる 乃 ゝ り ゝ の 山、　光的
白梅よ 蹄 陳 曙 か る 小 ち 武、　東苑

宮 法 春 よ 志 ゝ 行 山 家 の 家　加賀金沢　秀ゝ
鶴 屋 乃 ゝ 雀 行 ゝ き 如 ゝ 中、　逸行
人 里 の ち ゝ 紀 家 や 和 さ ゝ、　雪樵
菊 ゝ れ の 野 命 の ゝ と 菜 よ り、　里花
梅 ゝ い ゝ 隣 ゝ 行 ゝ る さ ゝ れ、　馬紅
二 百 義 ゝ 梅 伊 ゝ も ふ ゝ ゝ り、　嵐堂
梅 乃 門 旅 ゝ ゝ ん ゝ 春 ゝ 春、　三京更　来緒
潦 ゝ ゝ ゝ ゝ れ い ゝ ゝ れ 叶、　龍居
洗 ゝ ゝ い 如 春 や 生 ん る 梅 の 志、　高松　自明

行側い木の芽延る山路の那　北叟

見あるきぬ都のさらり社西東　粟河　稲梁

西山や夕日もうつる雲の雲　子来

鐘の響も明るうつる横雲　至峰

山川の秋すむ時の杉菜哉　春紅

一木うつ雲よりうれて横うつる　本吉　春輝

日のうつるうつるなれよ春の海　大聖寺　蘭皋

明るくうつる柳のうつる雲　磯水

雲やうつるうつる乃雲　能登　獅々窟　玻井

呈芭蕉堂

老記むかしうつる雲　おかく

千里先流世やうつる世

天使みうつる月の山下

絶きぬうつる世よりうつる

川さきうつる秋の山路哉　加由

[illegible]も移樹より華ふ紅ろく浴

越前ニ

素更

水の紅湯と震ふ星

南立

流れにも縋る尾の雪乃垂れく

粧青

杉乃中ゝ木をさゝ〳〵と拭

友南

三日月に遊ぶの乃〳〵絮へふり

振々

柚子の白ひよ舟の住もく

巨眼

あゝ〳〵と壁巣の中も小所塚

里晴

人結ぶとう松茂結ふく

古寥

涼〳〵ふの遊ぶより変とり出り

瓜巣

雨午時よりゆゝふの響

文霍

置砂のうへゝ茶屋さゝふり

一透

知るも志〳〵ぬもゝやり服をやむ

哲水

振弦り魚の市場の月をんて

一吼

寒ふる低ふさゝふの小やゝ〳〵名

竜至

[illegible]

木つゝふのつゝふ野ゝり垂振

僧

佛角

風を吉〳〵心ひ初ゝもゝ姿ふて

粧青

彼法沙ゝ言ふゝふゝふり

振々　瓜蔓
一吼　巨眼
里晴　文蘿
素更　一透
友南

古参
行脚　哲水
竜至
南立

若狭向笠　貫庖
食見　花雪
小濱　李今
北前川　年卜

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

氣仙 青柳
成出 北洋
山茱
生人 節之
小川浦 祺一
神子浦 十嵐
柳渝
樂鶯
燕柳

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

田井 牛兵
江州水口 蜃州
其友
日野 松羅
紫英
田井 重堀
宮知川 松風

仙臺より仕候之

陸奥にあけぼのの月やしなの山　八幡　桂翠

紅盛も人に栄をとられぬる　湖春　不得

庚つゝじ咲ぬる人もひとり来の国　三ツ星　来車

おもちろや書の下形夜の雲　堅二西　籬邑

ゆきもくらぬ雪おろしの山　九頂

田へ移る橋の本人し鳴蛙　野田　窮山

うゝ自然の春近の雲ぬる　連山

引時よつもるく余寒ぶし　舟木　柳丸

橋の雪ゆ下駄の弦ぬぎ鳥　五ツ木　鶯泊

いで、おろし移る橋乃雪ゆ郡、　北嶺

いつく浦ゆく

月丸く橋吹ゆ雲雀ゆく、　素雁

さゝ波の雪井ゆ孫自夜かぶ　之

雪行時ゆゆ夜の明ふゆ　高嶋　春夜

月の下にぬゝ抱くおし山　大津　宇洋

ぬゝ乃ぬゝ上ゆ夜の山　三井寺　千影

人中やかゆくゝゆる岸ゆ　申齊　五來

水まく土埃ある暑さこの都　山城伏見　霞潮

草の雛の足跡添ふ夜川　立

野も山も何を緑か暮らん　立

花ちる木の葉ちらしも苗代にほふ夜　城南寺田　竜水

花に鶯丹波の茶や嵐山　雲裡

春の夜の月嵐にあかし夜明かな　野尻　魯長

鶯る人住めり山ざくら　京　斗雪

雨の夜乃梅まだくらし山辺哉　月峰

鳥ゐる峰いやや暮ぬちる桜　石束

鶯ひく花からけ花を咲かせたる　石池

みよしの人なつかしき桜哉　玉洞

小町の山の雨より花ぞ里　芥水

盗まるる花もたをらぬ暮しけり　荷屋

万歳や雪の所のよしの山　布雪

鶯鳴くや百畝ぞ麦畠　馬遊

花織暮ぬ七千二百ひる色く　居然

中さ[illegible]ゝ[illegible]しの本法や志賀の者　一鮎
京生[illegible]花乃枝と[illegible]ひろり　其友
咲滿[illegible]枝の穂[illegible]梅うめ　不染
[illegible]乃日傘かさけく[illegible]　春嶂
夕かゝ[illegible]祇園あらしの行ふ　二松
[illegible]花中分のかゝ[illegible]濤めし　魯濤
[illegible]乃花中[illegible]　國雄
海士の家中[illegible]梅[illegible]　佛齊
鶯咲る醉木咲うゑて泊瀬山　千鎧

乃[illegible]ちる中汐かけさゝと山櫻　其白
待こゝの[illegible]花[illegible]　其成
[illegible]　橘棠
太も[illegible]ふ櫻の月夜　芳蹊
丁勝も[illegible]花乃入[illegible]　酒半
山の[illegible]　鉞李
[illegible]花[illegible]　茂文
[illegible]の日[illegible]や伊勢の神櫻　蘭之樹　百丸
いう[illegible]　玉鳳

更しき宵天下なる里の桜　宗[illegible]

高の寺に花ある沢門乃夕下馬　在貫

川越に花をとくや菜花嵐　玉洋

若うくの桜手さつの月夜哉　卜友

露鳴ら峰くたちりと寄乃桜哉　鉤大

咲出の眺めも能うらぬる哉　宗世

山みらの社むへの藤すみだらく一章　玉屑

ちら勝をおりつるさ桜の　直揚

若らく後むくまちわしと思日乃か　蒼虬

遅来

世の花やひさまきいおさほ　越ノ井波　路太

流れ釣を汲むまに包むか春の水　胡山

山のいのちのや春の鮎　[illegible]之

康乃有落るものとて落ほり　馬園

花は深うのそて春の岩屋さな　其呂

あるものはしきて空くいそらの落椿　納斎

雪をもるは出は似ら山桜　素琴

春さむしまさご月たりの夜哉　杜[illegible]

佐川や管弦の音に水あふれ　柳八
花盛りこまの駒なき嶺の雲　泗水
竹の音に月も笑ひの来る夜かな　文可
管弦や清澄木鳴て新涼へ　史朴
鶴の影ノ響ノ音に菊ノ香　九合
鶴よりの影に夏ぞ面影　任弄
手かくりの沙金袋下ノ柳ノ　梅蘭
梅の花ちるや表の菊ノ　十二日会　麻丸

寄柳や人々ノ君ノ来ノ涼ノ　主婦之　波弓
こゝらなの乃月の光の壁に心　巴舩
月ばかりの水に鳴るなる蛙　文高
蛙の腹よりふりて鈴ノ汁　外見之ラ川　八雲
あるノ人ノ坊ノ人ノ潮ノ柳ノ　戸出　玉河
ちるの花の二日も花やこゝの月　幾秋
菜ノ畑ノ空の月の蘭や蘭の影　杜園
みよしのや夕ノ乃あるよ月人　玉鳴

加賀金沢　雪蓬

[illegible]

百風

[illegible]

五十々

[illegible]

山房二

[illegible]

[illegible]

白堂

文陵

森下　玉宇

天見

[illegible]

閑斎菴

山環

[illegible]坂

[illegible]

芦山

[illegible]

無好

曉彩

いつの月　春とく来の夕ぐれ　大和六田　河洲

梅よ　月よ　ちりぬる宿の　幡　素堂

苗代や　宇治　蕉

松の移ひ　ほそり橋

梨の花　ちるとの笑

大世よ　雑のひ　蕉

湖水　乃之

月　鳥頂

里田　大魚

庵　溪

三月　蕉

ちんの海　庵畑　蕉

芭蕉堂書林　京都烏丸下ル　勝田善助梓